

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

日産のCSR戦略

持続可能なモビリティ社会の実現に向けて  
～チーフ サステナビリティ オフィサーからのメッセージ～



川口 均

川口 均  
日産自動車株式会社  
専務執行役員、チーフ サステナビリティ オフィサー (CSO)

世界で最も持続可能な企業になるために、私たちは「強さ」に加えて「優しさ」を持って取り組みを進めていくことが必要だと考えています。日産は長期的な目標を明確にしたうえで、サステナビリティ課題の解決に貢献していきます。社会の声に耳を傾けながらグローバルに環境や安全の取り組みを進めていくことで、社会の期待にしっかりと応えていきたいと考えています。

私たちは「ゼロ・エミッション」と  
「ゼロ・フェイタリティ」の実現を目指しています

クルマが広く普及したことで私たちの暮らしは大きく変わりました。多くの人々がモビリティによる自由や利便性、そして運転する楽しさを享受しています。一方で、世界の人口が増加し、人々の生活が豊かになるにつれ、世界の自動車台数は2050年までに24億台まで増加すると予測されており、温室効果ガスの排出量や交通事故による死傷者数の増大は緊喫の課題となっています。自動車メーカーの使命として、私たちはこうしたクルマにかかわるさまざまな課題の解決に積極的に取り組んでおり、企業として高い価値を提供していきたいと考えています。

日産は究極のゴールとして、走行中にCO<sub>2</sub>などの排出ガスをゼロにする「ゼロ・エミッション」と日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」の実現を目指しています。この考え方を企業サステナビリティの一環として、社内外に浸透・普及させていくことが私の役割です。

この2つの「ゼロ」を実現するために、クルマはどのようにエネルギーを使い、どのように走ればよいのでしょうか。そして今後、クルマは社会とどのようにつながっていくのでしょうか。私たちは、「ニッサン インテリジェント モビリティ」という考え方のもと、安全で持続可能なモビリティ社会の構築を目指し、より楽しく快適なカーライフをお客さまに提供していきます。

出典：ITF（国際交通フォーラム）「ITF Transport Outlook 2017」、OECD出版

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## 最先端の安全技術で、 持続可能なモビリティ社会の発展に貢献します

日産は“走る楽しさと豊かさ”を体現するクルマづくりに取り組むとともに、リアルワールド(現実の世の中)における高い安全性を最優先に考えています。交通事故の原因の9割以上が人為的ミスといわれる中、日産が目指しているのは、「ゼロ・フェイタリティ」です。交通事故を低減させ、「ゼロ・フェイタリティ」を実現するために、クルマが人を守るという独自のコンセプト「セーフティ・シールド」<sup>1</sup>に基づき、私たちはクルマの安全技術を進化させ、その機能を多くのクルマに適用・拡大しています。

2016年8月には、ミニバンとして世界で初めて<sup>2</sup> 高速道路の同一車線での自動運転を可能とする「プロパイロット」<sup>3</sup> を搭載した新型「セレナ」を日本で発売しました。「プロパイロット」を搭載した新型「セレナ」はお客さまから好評を博し、2016-2017日本カー・オブ・ザ・イヤー「インベーション部門賞」(セレナ)、2017年次「RJCカーオブザイヤー」(セレナ)、「RJCテクノロジーオブザイヤー」(プロパイロット)を受賞しました。日産は、明確なロードマップに基づき、自動運転技術の開発を推進しており、2018年には高速道路の複数車線における自動運転技術を投入し、2020年までに一般道での自動運転技術を投入する予定です。



「プロパイロット」を搭載した「セレナ」

## クリーンな電動パワートレインで 運転する楽しさを提供します

私たちは、クリーンで効率の高い電動パワートレインを採用することで、これまでにない加速性能や静粛性能を実現し、高い安全性と同時に楽しくワクワクするドライビング体験をお客さまに提供しています。

走行中にCO<sub>2</sub>などの排出ガスを一切出さないゼロ・エミッション車<sup>1</sup>「日産リーフ」は、力強く滑らかな加速性能と優れた静粛性能、高い操縦安定性を実現しています。販売開始以降、「日産リーフ」により削減されたCO<sub>2</sub>の排出量は世界で52万9,149トン<sup>2</sup>と試算されています。

また、ガソリンエンジンとモーターを融合した新しい電動パワートレイン「e-POWER」<sup>3</sup> を搭載した「ノート」は、モーター駆動ならではの力強くレスポンスの良い加速と優れた静粛性、高い燃費性能を実現し、お客さまに爽快なドライビング体験を提供しています。こうした「ノート」の魅力はお客さまから高い評価を得て、2016年度下期(2016年10月-2017年3月累計)のコンパクトセグメント<sup>4</sup> 国内販売ランキングで1位を獲得しました。



「ノート e-POWER」

▶▶ page\_51

1 「セーフティ・シールド」に関する詳細を掲載しています

2 約60km/h未満で走行時の車間および操舵制御を搭載した1.5~2.0Lクラス8人乗りミニバンが世界初(2016年6月現在 日産調べ)

▶▶ page\_53

3 「プロパイロット」に関する詳細を掲載しています

▶▶ page\_26

1 ゼロ・エミッション車に関する詳細を掲載しています

2 2017年2月末時点の数値をもとに各国総走行距離(km)÷各国総燃費(km/L)×CO<sub>2</sub>変換係数(L/kg)÷1000(kg/ton)で試算。ただし、計測の範囲は販売されたすべての車体ではなく、実際に計測できたデータのみ

▶▶ page\_34

3 「e-POWER」に関する詳細を掲載しています

4 コンパクトセグメント: 総排気量1600cc以下の小型・普通乗用車

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## クルマと社会をつなげることで、 未来への可能性を広げていきます

今後、情報化社会がさらに発展するにつれ、クルマは日々の生活とより深く融合していきます。クルマを情報ネットワークや道路、電力網といった社会インフラとつなぐことでその利便性はさらに高まり、交通渋滞の緩和やエネルギーマネジメントの効率化などのメリットももたらされます。「ニッサン インテリジェント モビリティ」は、お客さまにとってクルマがパートナーとなり、さらに社会とつながることで、より良い未来を構築することを目指しています。

目まぐるしいスピードで変化する社会に迅速に対応するため、私たちは社外のステークホルダーと協力した取り組みも進めています。そのひとつとして、ルノー・日産アライアンスはお客さまのドライビングエクスペリエンスを向上させるため、次世代コネクテッド・カー技術の開発でマイクロソフト社と提携<sup>1</sup>しました。今後、次世代のコネクテッドおよびモビリティ・サービスを共同で開発していきます。

また、将来的に自動運転車が社会と調和することを目指し、事故や路上の障害など不測の事態に直面した際でも、クルマを安全に誘導できる手段を提供する「シームレス オートノマス モビリティ (SAM)」<sup>2</sup>と呼ばれるシステムを開発しています。



▶ website

1 マイクロソフト社との提携に関する詳細を掲載しています

▶ page\_58

2 「SAM」に関する詳細を掲載しています

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

ブルーシチズンシップ—日産のCSR—

日産のCSRビジョン

日産は「人々の生活を豊かに」という企業ビジョンを掲げ、グローバルなあらゆる事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。そして、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、ルノーとの提携のもとにすべてのステークホルダーに提供することが日産のミッションです。

同時に、世界をリードする自動車メーカーとして、人々が直面する課題の解決に貢献することも私たちの使命です。日産はお客さま、株主、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーを大切に思い、将来にわたって価値ある持続可能なモビリティの提供に努めます。事業を通じて経済貢献すると同時に、社会の一員として、持続可能な社会の発展を目指します。

私たちの企業ビジョン 日産:人々の生活を豊かに

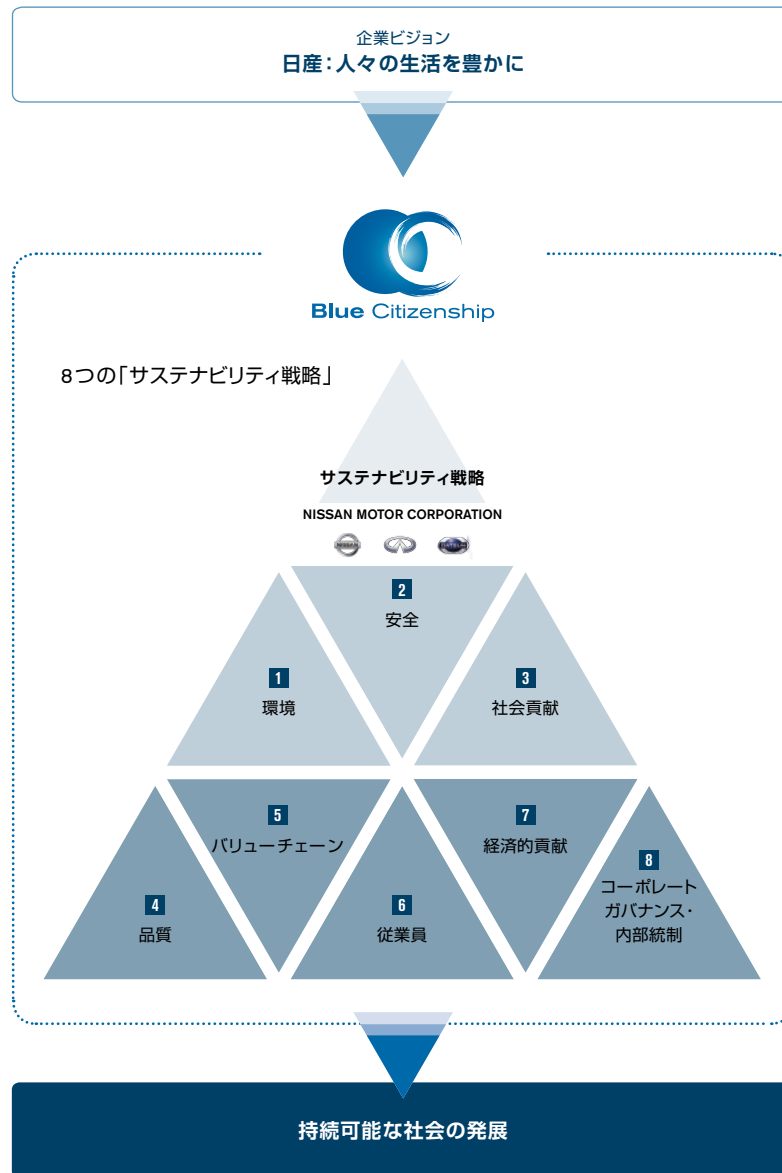
私たちの企業ミッション 私たち日産は、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、すべてのステークホルダーに提供します。それらはルノーとの提携のもとに行っていきます。

私たちのCSRビジョン 日産は業界をリードする持続可能な企業の一つになることを目指します。

8つの戦略

日産は、CSRの取り組みとして8つの「サステナビリティ戦略」を定めています。「環境」「安全」「社会貢献」の3つは、世界をリードする自動車メーカーならではの活動を推進する領域です。クルマというモビリティが潜在的に抱えている課題を解決し、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献するとともに、企業のCSR活動全体を牽引していきたいと考えています。「品質」「バリューチェーン」「従業員」「経済的貢献」「コーポレートガバナンス・内部統制」という5つの領域も、私たちが社会から信頼され、必要とされる企業であり続けるために欠かせません。日産は8つのサステナビリティ戦略を誠実に推進することで企業としての社会的責任をしっかりと果たし、信頼を高めていきます。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制



**1 環境**

持続可能なモビリティ社会の実現に向けて、クルマのライフサイクルにおける環境依存・負荷を低減し、実効性のある商品・技術を拡大することで、社会の変革をリードしていきます。

**2 安全**

技術の革新に加え、安全推進活動に積極的に取り組み、クルマ社会をより安全なものにしていきます。

**3 社会貢献**

「環境への配慮」「教育」「人道支援」の3つの重点分野を中心に、企業市民として果たすべき社会貢献活動に取り組みます。

**4 品質**

世界中でトップレベルの製品やサービスをお客さまにお届けします。

**5 バリューチェーン**

サプライチェーンのあらゆる段階において、倫理的で環境に配慮した行動がなされるよう促進していきます。

**6 従業員**

多様な人材がグローバルビジネスを通して自らの成長を実感できる、魅力的な組織づくりを目指します。

**7 経済的貢献**

持続的な利益ある成長を目指します。そして社会全体の経済的発展にも貢献します。

**8 コーポレートガバナンス・内部統制**

法令と会社のルールを順守し、公平・公正で高い透明性を持った効率的な事業活動を目指します。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

マテリアリティ評価に基づき社会の重要課題を分析

日産のCSRビジョンを達成するために、社会の重要課題を定期的に経営会議体で論議し、日産がグローバル企業として、また自動車メーカーとして、グループ会社全体で取り組むべき優先課題を特定してCSR戦略に反映しています。自社の潜在的な好機と課題を論議・分析し、マテリアリティ（経営に重要な影響を与える要因）評価の結果を「マテリアリティマトリックス」として表現しています。

日産では、ステークホルダーの懸念や関心、技術の革新などの最新動向を踏まえ、マテリアリティ評価の見直しを行っています。

マテリアリティ評価は、以下の3つのステップで行っています。

- 2015年度に作成したマトリックス(右図参照)で認識された内容に加えて、各種CSRガイドラインの内容やCSRのトレンド、自動車業界内外での国際的な直近の取り組みなどを参考として、サステナビリティの重要課題を検討。
- 選定した課題は、事業活動への潜在的な影響とステークホルダーの関心度を評価基準として分析・整理し、マトリックスの素案を作成。
- 次に、社内外のステークホルダーにインタビューを実施し、その内容を受けて修正したマテリアリティ評価の結果を、経営陣が確認。

日産では、このマテリアリティ評価を今後の企業戦略の策定に織り込んでいきます。

▶ page\_04  
「持続可能なモビリティ社会の実現に向けて」の詳細を掲載しています

マテリアリティマトリックス

ステークホルダーの関心度	極めて高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 水資源の枯渇</li> <li>▪ 事業活動からのCO<sub>2</sub>排出</li> <li>▪ バリューチェーンにおけるサステナビリティマネジメント</li> <li>▪ 資源の利用効率</li> <li>▪ コーポレートガバナンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 燃料消費・製品からのCO<sub>2</sub>排出</li> <li>▪ 持続可能なモビリティ社会の実現（ゼロ・エミッション、安全を含む）</li> <li>▪ 製品品質、セールス・サービス品質</li> <li>▪ 持続的な利益ある成長</li> <li>▪ 再生可能エネルギー</li> <li>▪ 大気の質</li> </ul>	
	とても高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 生物多様性と生態系システム</li> <li>▪ 安全な職場の構築</li> <li>▪ 廃棄物の最終処分量</li> <li>▪ 化学物質の使用</li> <li>▪ 社会貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ダイバーシティ</li> <li>▪ ブランド</li> <li>▪ 従業員の育成</li> <li>▪ リスクマネジメント</li> <li>▪ ルノーと日産のアライアンス</li> </ul>	
	高い			
		高い	とても高い	極めて高い

自社への潜在的な影響度（自社への重要度）